

策定年月	令和5年6月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：栃木市部屋地区

（作成主体：田村農産）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○麦生産

【現状】

- ・現在麦の作付面積が増大しており、さらに近年は麦の播種時期に降雨が多く、年度により湿害による収量低下の影響が出ている。R3麦類単収(370kg/10a)
R4麦類単収(256kg/10a)

【課題】

- ・播種時期の連続した降雨により、播種適期を逃し、また湿害による収量低下につながっている。

【課題解決に向けた取組方針】

(1) 排水対策の実施による収量の向上

① スタブルカルチ等導入による排水対策技術の導入

今回の事業で導入するスタブルカルチ及びロータリーで心土破碎を行い、水田跡の作付の排水対策を強化する。

② 団地化およびブロックローテーション

団地化することで水張り水田からの横浸透による湿害を防ぐ。

(2) 今後の生産拡大に向けた方針

大麦、小麦ともに作付拡大を進める。現在は小麦はさとのそら1品種となっているが、実需の動向、産地の展開によっては求められる品種の作付も検討する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

1. 連携方針

○ビール麦(ニューサチホゴールド)

JALもつけより [redacted] および [redacted] へと供給される。実需者の需要を的確に把握し、需要に応じた生産を実施する。

○小麦(さとのそら)

小麦の集荷事業者である全農とちぎと連携し、需要に応じた生産を実施する。

2. 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状と目標値

【産地】(栃木市部屋地区 中心的農業者：田村農産)

品目	品種名	現状 (R4)	目標 (R8)	現状の供給先
ビール麦	ニューサチホゴールド	47,046kg	66,000kg	[redacted]
小麦	さとのそら	26,277kg	34,920kg	[redacted]

【実需者】

小麦:さとのそらの需要に対して、供給不足の状態ではあるが、JALもつけ出荷者数は毎年減少しており(R3年産からR4年産のさとのそら出荷者数は1名減で36名)、生産量を維持するために、農地の集約及び作付拡大をにより対応する。

ビール麦:R5年産の県産ニューサチホゴールドについては、[redacted] t供給不足となっている。

3. 目標達成に向けた具体的な方策

農地の集約及び作付拡大により生産量の増加を図る。

実需者との意見交換を通じて需要把握に努める。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

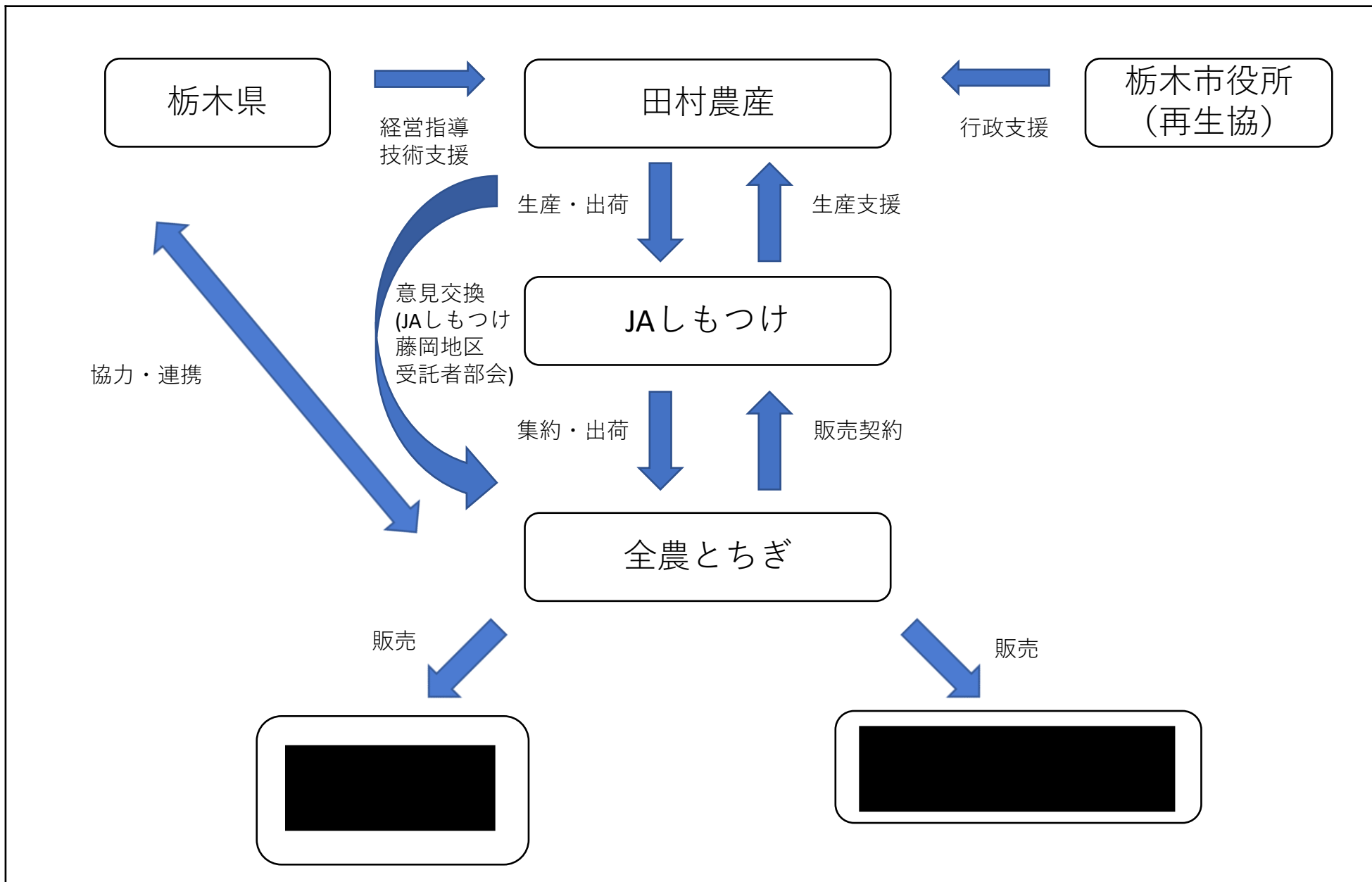
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。